

どけん共済会では組合員のお子さんの小学・中学入学時に5000円の図書カードをプレゼントしています。該当する方は申請を。また春の拡大月間では子育て世代の仲間へ声掛けしてください。

新入学祝金を申請しましょう



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

印刷部数11万400部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人 三木 勉

働くものが報われる社会をめざそう

東京土建第74回定期大会



運動の先頭に立つことを誓い団結ガンバロー

コロナ禍の不況対策が重点 7つの運動課題を提起

3月14日、東京土建は「建設労働組合の統一と団結を固め、社会の矛盾と分断に抗し、働くものが報われる社会をめざした大衆的大運動と組織の多数派形成をめざそう」をメインスローガンに掲げ、第74回定期大会を開催しました。新型コロナウイルス感染の収束が見えず、2年連続の1日WEB開催となり、本部会館と9ブロック10会場をライブ配信でつなぎました。全体の参加者は代議員が307人、代議員以外の本部役員が18人、特別代議員が44人の369人でした。

定期大会開会にあたり大会議長に松本勇一(府中国立)、佐藤広平(豊島)、大会書記長に佐々木健(三鷹武蔵野)の皆さんをはじめとする諸役員を選出しました。

冒頭、中村隆幸委員長が中央執行委員会を代表して挨拶。コロナ禍に抗して仲間の窮状に悩んでいた建設アクション2020の活動や、国に対して全面勝利を勝ち取ったアスベスト訴訟最高裁決定などの取り組みについて述べる

統制処分の決定を確認

建設アスベスト訴訟原告団の宮島和男共同代表の挨拶に続いて、渡辺義久副委員長が「東京土建未来の会」に関する説明を行ない、組合員資格の地位を保全する仮処分決定が出されたが、これは法的な一時的な判断に過ぎないことなどを報告、統制処分の決定が正しかったことを大会代議員で確認したいと述べました。

「未来の会」についての修正動議等については大会後の新執行部での協議にゆだねることとされ、統制決定に関する採決を記名投票で行ないました。投票の結果、統制委員会の決定支持が圧倒的多数を占め、統制処分の決定が確認されました。その後、役員選挙(副執行委員長、常任中央執行委員)が行なわれました。

建設アクション到達を飛躍台に

小番書記長の基調報告では、コロナ禍とその後に向けた建設不況対策を重点に、①現場での交渉づくりに向けた大衆的な運動構築と組織化、②PALの再構築・資本従事者組織化と運動化、③建設アクションの運動到達を次なる運動への飛躍台に、④町場対策と運動の組織化、⑤拡大運動の意義と組織建設の運動方向、⑥「仲間を守る」建設国保と共済推進、⑦国民要求・平和と民主主義を守る運動の7つの課題を具体化する2021年度方針を提案しました。

丸山篤義財政部長の決算報告および予算案提案に続いて、基調報告、決算、予算に対して事前に出された質問・要望に執行部が答えて採択。さらに大会宣言、大会スローガンが採択されました。

役員選挙の結果、選出された新執行部が紹介され、新役員を代表して中村執行委員長が挨拶しました。また退任役員からは芳井武前厚生文化部長が挨拶しました。

最後に団結ガンバローを全会場の参加者で行ない、閉会しました。

復興支援を続けよう

大震災10年講演と文化の集い

墨田支部自主防災組織ハンマーズが内閣府の防災情報「1日前プロジェクト」を紹介。災害の1日前に戻れるとしたら、何をやるかを自分ごととして考えてみよう」と提起しました。

また本・支部で取り組んだ東日本大震災の被災者支援と復興の記録映像をまとめた「忘れない3・11これから心寄り添う」を上映。

これまでの活動を振り返りながら、改めて活動の意義を再確認しました。

最後にバイオリニストの梓澤たまきさんによるアヴェ・マリアなどの鎮魂曲の演奏を鑑賞し、閉会しました。



鎮魂曲を演奏するバイオリニストの梓澤たまきさん

■政府はマイナンバーカードに保険証機能をもたせる「オンライン資格確認システム」の試行運用を行なっていたが、一部の医療機関で患者の情報が確認できないなどのトラブルが発生。本格運用は先送りすることとなった。

■全国保険医団体連合会(保団連)は「2021年3月以降もこれまで通り保険証を持参してください」と知らせるポスターを作成。保団連はマイナンバーカードを読みこむカードリーダーの導入が大半の医療機関では間に合わず、コロナ禍で疲弊しているところで混乱が避けられないことを危惧していたが、半ば当たってしまったというべきか。

■政府はテレビCMでマイナンバーカードに保険証機能を持たせることで健康情報が管理できるなど、健康情報が管理できると宣伝していた。現場で混乱や障害が発生するようマイナンバーカードの利用を急ぐ理由は、デジタル情報をマイナンバーに紐づけてデジタル庁で一元的に管理することにある。しかし行政の外部委託で個人情報民間企業が扱う機会が増えており、情報の外部流出の危険性は高まる一方だ。

■医療崩壊が懸念されている現在、政府は医療現場の声を聞くべきだ。国民の命と健康を危うくしてまでマイナンバーカード利用を進めることに疑問を持たずにはいられない。